



2014年7月1日(火)スタート!!

アプリ開発者を育てるプログラミングスクール

TechInstitute

アプリ開発者養成講座

受講生
募集中!

生活をよりスマートにするアプリと、高まるアプリ開発人材への期待。

早稲田大学エクステンションセンターは、サムスン電子ジャパン株式会社、株式会社角川アスキー総合研究所との提携により、Android アプリ開発者を養成する講座を開講します!

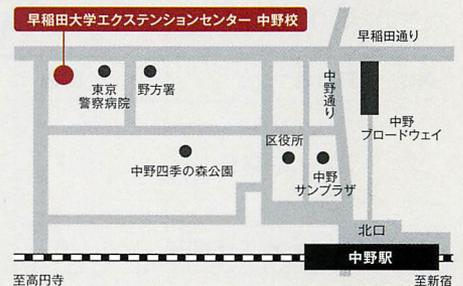
16~20歳は受講無料!
全65回の充実したカリキュラム
現役開発者がメインの講師陣



講座実施場所は早稲田大学エクステンションセンター 中野校

受講対象者
定員
応募締切
開講期間
開講時間
受講料
監修
講師代表

1998年4月1日以前に生まれた方(2014年4月1日時点で16歳以上)
50名(選考あり)
2014年5月9日(金) 郵送にて。期限内消印有効
2014年7月1日(火)~12月10日(水) 全65回
19:00~21:00
1993年4月1日以前に生まれた方は、70,000円
筧 捷彦(早稲田大学理工学術院教授)
嶋 是一(日本Androidの会 会長)



詳しくは
Webサイトで

<http://techinstitute.jp/>





選考について

1 応募期間および提出先

2014年3月17日(月)~5月9日(金)

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学エクステンションセンター Tech Institute 係宛

郵送による申込みとし、上記の期間内消印有効とします。

2 提出書類

以下 4 点をまとめて上記 1 の要領でご提出ください。提出された書類により書類選考を行います。

提出シートは以下 Tech Institute のWebサイトからダウンロードしてください。

(word形式とPDF形式があります。使いやすい方をお使いください。)

※提出された書類、個人情報、本学「個人情報の保護に関する規則」に則り、本選考ならびに本講座受講上必要なことのみ利用し、その他には利用しません。
また、提出された書類は返却しません。

ア. エントリーシート	必要事項を入力ください。
イ. 作文	あなたが今興味を持っている実在するスマートフォンアプリ 3 つについて、下記の内容を盛り込みつつ、それぞれ400字程度にまとめてください。 ・おすすめポイント ・おすすめの理由
ウ. 企画書	あなたが作りたいスマートフォンアプリについて、下記の内容を盛り込みつつ自由にまとめてください。 ・アプリの登場により解決される課題 ・ターゲットユーザー層

エ. 年齢を証明できるもののコピー(健康保険証、運転免許証、等) ※1993年4月2日以降に生まれた方のみ

3 書類選考結果発表

発表日: 2014年5月23日(金)

書類選考の結果、面接選考に進んでいただく方へ、選考日程をメールで通知します。

その際エントリーNo も通知します。

※事前に「techinstitute.jp」「list.waseda.jp」ドメインを受信可能にしてください。通知ができない場合があります。

4 面接選考

面接選考日: 2014年5月27日(火)~29日(木) 19:00~21:00 ※面接時間は、左記の内約20分です。

場 所: 早稲田大学エクステンションセンター中野校

5 受講者発表

発表日: 2014年5月30日(金)

面接選考の結果を以下 Tech Institute のWebサイトで発表し、かつ受講者へメール通知するとともに、受講手続き書類を郵送します。

※受講手続き状況により、受講確定者を追加発表する場合があります。

URL: <http://techinstitute.jp/>

講座概要(シラバス)

以下のとおり、Android アプリ開発を実践していくための実技を中心とした科目により構成されています。

No.	科目名	回数	
1	ファーストステップ	7	スマートフォンなどのデバイスを取り巻く状況、OS やデバイスの基礎知識やインターネットとの関係、プログラム言語の概要など Android アプリ開発に着手する前に知っておくべき入門知識を学ぶ。具体的には、プログラミング、コンピュータ、ストレージやネットワークに関する基礎知識を理解し、JAVA言語によるプログラミングと開発環境のセットアップによる実践を行う。
2	Android の仕組み	6	Android OSを理解し、AndroidのAPIの知識を深めると同時に体感的にアプリ開発を掴む実践を行う。
3	基礎編	4	UIにおける共通基礎理論とAndroid固有のUI設計のポイントを習得する。
4	ステップアップ編	7	スマホアプリの軸となっている「ゲーム」と「ユーティリティ」という2ジャンルにフォーカスしてアプリ開発の実際を学ぶ。
5	応用編	31	ジャンル別にAndroidアプリのさまざまなテーマに取り組む応用実践編。
6	実習編	6	ここまでの過程で学んだ内容のまとめとしての応用演習。 公開を前提としたAndroidアプリの企画、設計、開発・制作を実施させる。
7	公開とブラッシュアップ	4	アプリ開発のライフサイクルを確認し、公開のためのノウハウを習得する。 作成、公開したアプリのレビューを受け、それを反映させる。